



できごと

5月26日(金)に、静岡県立中央図書館の図書館講座として、子ども図書研究室講座が開催されました。

講師には池田正孝氏(東京子ども図書館理事・中央大学名誉教授)をお迎えし、午前は「ピーターラビットの世界」、午後は「ホフマンのグリム童話の世界」と題して、スライドを元にお話を伺いました。

講師のご専門は中小企業論ですが、海外訪問の際は、作品の背景になった土地を訪ねてはカメラに収め、多くのスライドを作成されています。今回の講義には当初の募集定員50名に対して100名を超える申込があり、受講生はみな講師の熱心なお話に取り込まれていました。

(裏面にて、概要を紹介します。)

子ども図書研究室のテーマ展示

ただいま展示中です!

「戦争の本」

子ども図書研究室講演会関連資料

第52回青少年読書感想文全国コンクール課題図書

新着図書も常時展示中です。

イベント情報

静岡県子ども読書フェスティバル

日時:平成18年8月6日(日)10:00~15:00

午前・自然と遊ぼうよ (10:30~12:00)

午後・ワークショップいろいろ(13:00~15:00)

会場:静岡県立中央図書館

主催:静岡県読み聞かせネットワーク

参加費:無料

問い合わせ先:飯野紀代子

TEL&FAX 054-245-5843

新着図書から

物語

『きりんゆらゆら』



吉田道子 / 作

大高郁子 / 画

くもん出版

2006年2月

転校を繰り返している小学校5年の荒太は、友達と軽く付き合っていたが、新しい学校で出会った「しゃべらない」クワガタくんが気になる。クワガタくんがしゃべらなくなったのは、半年前の自動車事故が原因である事が明らかになるが、その裏には深刻な事情があった。何とか友達になろうと関わっていく荒太の気持ちが、クワガタくんにも一歩を踏み出させる。

少ないページ数の中で、よくまとまっており、希望が持てる終わり方に読後感もさわやかである。【小学校高学年から】 (殿岡)

絵本

『じしんのえほん』



国崎信江 / 作

福田岩緒 / 絵

目黒公郎 / 監修

ポプラ社

2006年2月

子どもが1人のときに、路地、公園、海辺などで地震に遭遇した場合、どのようにすればよいのだろうか?

本書は震度4~5程度の地震を例にして、日常生活のさまざまな場面で地震が起こったときの变化と身の守り方を、絵とQ&Aで説明した地震防災絵本である。地震によってどのような被害が考えられるのか、そして子どもはどのような行動を取ればよいのか、親子で考えながら、またグループで話し合いながら読みたい1冊。

【小学校低学年から】 (渡辺勝)

子ども図書研究室講座 報告

講師の池田正孝氏は、何度もヨーロッパ各地を訪れ、話の舞台を実際に歩いては撮影を重ねている。その豊富な経験と、午前・午後それぞれ220枚にのぼる多数のスライド上映、裏話を交えた軽妙な語り口などで、一緒に観光旅行をしている気分を味わう幸せな講義となった。



午前の部の「ピーターラビットの世界」では、『ピーターラビットのおはなし』を生み出したビアトリクス・ポターの年譜と、作品リスト、湖水地方の地形図を照合しながらの講義となり、ポターの実際の経験と、話の内容との密接な関係が手に取るようになった。

出版点数が聖書よりも多いと言われるピーターラビットの絵本は、世界各国の言語で出版されており、英語版に次いで出版点数が多いのは、日本語版である。

ポターは、年少期にダンケルドのダルガイス荘で動植物の観察や採集を、10代にはバーナムのヒース・パーク荘でこの研究を行った。そして20代で、ダンケルドのイーストウッド荘から家庭教師の息子のノエルに「ピーターラビットの絵手紙」を送っている。ポターが過ごした別荘は、すべてその作品の背景となっている。

湖水地方で出会ったロンズリー牧師にすめられて絵本を描き始めたポターは、その後、牧師が提唱した「ナショナルトラスト」に賛同する。これはイギリスの風光明媚な風景を保存しようとする活動であり、ポターの父親が第1号終身会員であった。そのため、『ピーターラビットのおはなし』の絵本のままに、レンガ塀やルピナスの花、建物や門扉など、100年以

上前の湖水地方の風景がそのまま残されている。

イギリスの文学には必ずモデルがある。イギリスの子どもたちがイギリスの話に夢中になるのは、事実に基づいた話であり、リアリティがあるからだ、と池田氏は述べる。



ポターが「私はイベントできない。コピーするだけ」と言うように、彼女は頭のなかだけで創作するのではなく、詳細なスケッチを重ねたうえで物語や挿し絵を作り出している。実在する場所や昔話から「ピーターラビットの世界」が生まれているのである。

ほかにも『トムは真夜中の庭で』（フィリパ・ピアス）、『時の旅人』（アリソン・アトリー）など、さまざまな児童文学作品の舞台となったバーナムの森などのスライドが示され、登場する物語の場面を彷彿とさせた。

午後の部の「ホフマンのグリム童話の世界」は、フェリクス・ホフマンが4人の子どもたちに贈った絵本から、後に刊行された有名な『ねむりひめ』『おおかみと七ひきのこやぎ』『ラプンツェル』などについて、その背景を巡る講演となった。

所蔵資料から

知識



『ピーターラビットの野帳

(フィールドノート)』

ビアトリクス・ポター / 絵

アイリーン・ジェイ / ほか文

塩野米松 / 訳

福音館書店

1999年11月

イギリス湖水地方のアーミット図書館に収蔵されているコレクションを中心にした、ポターのスケッチ集。遺跡の出土品やキノコなどに対する、細やかな視線がしのばれる。【中学生から】

(宮崎)

*表紙画像はすべて出版社の許可を得て掲載しています。